

## 地域支援課題「大学生メンタルヘルス支援の地域内連携（タテ×ヨコの連携強化）」

常葉大学静岡キャンパス学生支援センター

代表者：センター長 百瀬容美子

構成員：副センター長 大川 信子 他 14名

### 1. 要約

本研究は、既存の地域ネットワークの拡充と連携システム構築に向けて取り組むことであり、今年度はデータ収集による実態調査をし、現状把握することを目的とした。目的達成のための実態調査は、大学と地域支援者とによる情報交換によりデータ収集がなされた。それを踏まえて、大学と地域との支援ネットワークによる地域一体型モデルの構築がなされた。地域に対しては、1) 常葉大学静岡キャンパス学生支援センターと同様の支援コーディネイト機関の必要性、2) 大学生が利用しやすい支援資源に関する案内法の工夫の2点が提案された。今後は、本研究で得られた実態と知見の活用方法を吟味し、実用化に向けて検討することが課題として浮彫にされた。

### 2. 研究の目的

本研究は、「大学生メンタルヘルス支援の地域内連携（タテ×ヨコの連携強化）」をテーマとし、大学での生活支援を地域の若者支援も交えてより重層化することで、卒後や休学時などキャンパスを離れた時にも活かされるネットワークづくりを先駆けている。換言すると、大学と地域との支援ネットワークによる地域一体型モデル構築に向けた取り組みと言える。

これらの取り組みにより、静岡市周辺にある地域ネットワークの拡充と連携システム構築に資する基礎資料となる。地域に根差す本学学生を含む若者たちへのサポートシステムが構築されれば、若者世代による地域貢献や地域発展の一助となり、社会問題であるひきこもりやモラトリアム（職業選択など社会参加への猶予期間）への補助支援になる。

### 3. 研究の内容

研究内容は、大学生等の地域若者支援機関同士（常葉大学、就職支援施設、ひきこもり支援施設など）の情報交換を通して、大学生の実態を把握し、同時に、地域における大学生支援の代表的施設を把握して、それぞれが有する支援内容や現状について情報交換を行うことであった。本事業の意義は、これまで、若者支援としては共通しつつも背景とするコミュニティを異にする（大学か地域か）機関同士が、現状を共有し、連携による支援効果の向上や連携上の課題を明らかにすることと考える。

本事業に期待される成果は、①地域における大学生の多種多様で複雑さを増すその実態が明らかになること。②地域資源の実態とそれらにおける大学生を含む若者に対するサポ

ート取り組みの実態が明らかになること。そして、③明らかにされた知見は、静岡市周辺にある地域ネットワークの拡充と連携システム構築に資する基礎資料となった。

#### 4. 研究成果と今後の課題

当初の計画では、上述の研究目的に対し、既存の地域ネットワークの拡充と連携システム構築に向けた取り組みにおいて、郵送形式によるアンケート調査を実施する予定であった。実施スケジュールは、平成28年11月初旬に研究打ち合わせ開始、情報共有、人材資源等の確認をし、平成29年11月下旬に調査内容の吟味、平成29年12-1月にアンケート調査実施（県内大学と青年向け県内施設）と分析、平成29年2月に成果報告書の作成を計画した。

実際には、計画内容を一部修正して実施された（B一部修正）。具体的には、今回の事業期間内ではアンケート調査を行う時間的な確保は困難だと判断し、アンケート調査実施（県内大学と青年向け県内施設）と分析を行わないことにした。演繹的に実態把握や連携モデル構築を研究することに替え、研究参加校である常葉大学静岡キャンパスを例に帰納的な方法で研究することとした。その結果、実際には、平成27年11月29日に研究打ち合わせを実施し、同年12月15日には大学生を対象とした地域支援施設との情報交換を実施（詳細は後述）し、それを受けて同年12月27日に情報精査を終えた。さらに、本報告後の日程となってしまったものの、翌年3月2日に、大学内の専門的支援者（大学カウンセラー1名；臨床心理士、大学非常勤職員）に直接的に地域の若者支援状況を伝え、意見交換することを計画した。

##### 4-1. 研究成果

今回の研究過程において、常葉大学静岡キャンパスの支援体制を一つのモデルとして、大学での支援者と地域若者支援者との情報交換会を開催した。今回の成果として、まず確認しておきたことは、この情報交換の機会自体がこれまでには未着手であり、参加者間で意義深いものであるとの感想が聞かれたことである。

表1. 情報交換会の概要

日 時	平成28年12月15日 午後1時30分～午後3時30分
会 場	静岡市こころの健康センター（静岡市葵区柚木）
参加機関	<ul style="list-style-type: none"> <li>○常葉大学静岡キャンパス学生支援センター</li> <li>○非営利活動法人サンフォレスト（市ひきこもり地域支援センター受託団体）</li> <li>○非営利活動法人青少年就労支援ネットワーク静岡（厚生労働省地域若者サポートステーション受託）</li> <li>○静岡市子ども若者相談センター</li> <li>○静岡市こころの健康センター（計5機関）</li> </ul>

この情報交換会や、その後の個別の意見交換等において確認された成果として、次の2

点があげられる。

### 1) 大学と地域とにおける支援体制の比較・共有

第一には、情報交換会を通して、常葉大学静岡キャンパス学生支援センターと同様に地域における支援コーディネイト機関の必要性が浮彫になった。常葉大学では、静岡キャンパスにおける一元的な学生支援体制をさらに充実させるために、学生支援センターがあらゆる支援に対する総合窓口となり、学外の連絡・調整している。その一環として、休学時や復学時、そして退学後に学外の支援施設との連携を図り、地域一体型の学生支援モデルを推進している。こうした窓口部署と機能は、大学だけでなく地域にも同様に設置されることが必要だと考えられた。

### 2) より多様な支援主体への情報周知必要性の確認

第二には、大学内と地域の双方において支援コーディネーターが配置されるだけでなく、各支援機関（窓口）の役割や対象者等の情報を、より多様な支援主体に周知する必要性が確認されたことも成果である。

その必要性は、学生（若者）の支援ニーズが多様化していることや専門分野をもった支援者（例えば、こころの健康、就労、ひきこもり等）が地域に整備されていることを考慮すると、コーディネーターがすべてに伴走できなかつたり、初期相談をキャッチできなかつたりすることを考えると明らかになる。

そのことから、コーディネイト機能をもった支援者に関わらず、さまざまな立場の支援者が情報を入手しやすくするしくみづくりが求められる。その支援者には、大学の教員はもとより、若者（学生）自身のセルフケアも含む。

## 4-2. 今後の課題

最後に、こうした一連の研究活動から浮き彫りになった課題について述べる。大学生の心情や行動の表れは年々多種多様化している。学生（若者）を支える重層的な地域一体型モデルが構築・機能すれば、教育機関に所属する学生（若者）だけでなく休学中や退学後には地域が支援することができる。こうした手厚い支援ネットワークが実現すれば、学生（若者）の自殺予防、ひきこもり予防、地域貢献する若者数の増加を見込むことができると考えられた。そのために、今回は時間的制約からモデル的な検討にとどまったが、今後は本研究で得られた知見の活用法を吟味し、実際に活用した効果検証することが課題である。

## 5. 地域への提言

### 5-1. 地域における支援窓口の明示化

常葉大学では、静岡キャンパスにおける一元的な学生支援体制をさらに充実させるために、学生支援センターがあらゆる支援に対する総合窓口となり、学外の連絡・調整している。特に、地域にある支援施設とは、大学生がキャンパスにはいない時間や時期（具体的には、休学時や復学時、そして退学後）に連携を図り、地域一体型の学生支援モデル

ルを推進することを提案する。例えば、図1に示すように、大学および地域における支援窓口を明示化し、窓口を中心に支援をつないでいくことができるのではないかと考えられた。

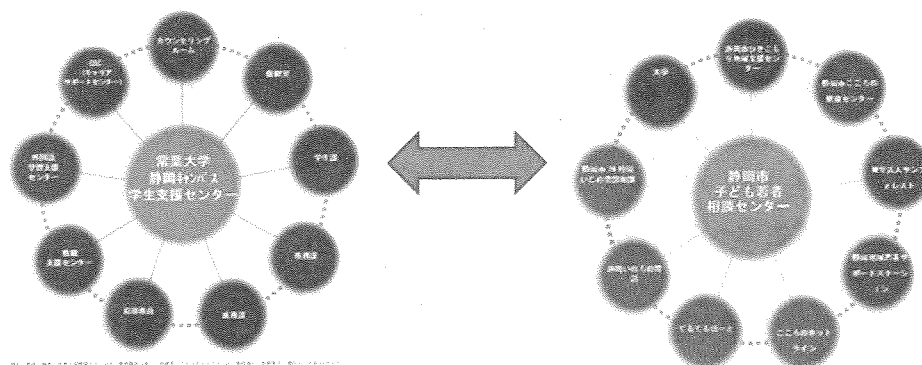


図1. 大学および地域における支援窓口の構想例

## 5-2. 大学生が利用しやすい支援資源に関する案内法の工夫

大学と地域との支援ネットワークによる地域一体型モデルを構築に向けた取り組みにおいて、現段階においては大学にある支援部署（学生支援センター、キャリアサポートセンター、教職支援センター、入学センター、カウンセリングルーム、医務室など）のパンフレットを集約した。一方で、地域にある支援機関（静岡市こころの健康センター、静岡市子ども・若者相談センター、静岡市ひきこもり地域支援センター、静岡地域若者サポートステーションなど）のパンフレットが集約した。

本事業の成果と今後の発展に向けて、本事業で集約されたパンフレットは、大学生、そして、大学生の支援者となり得る者（例えば、大学教員、大学事務職員、大学非常勤講師、大学非常勤職員など）に対して、周知されていくことが必要だと考える。現段階では、既存の支援パンフレットを用いた周知活動ができるといえる。そこで、1) 常葉大学静岡キャンパス学生支援センター（瀬名校舎、水落校舎）に、パンフレットスタンドを設置し、そこに収集されたパンフレットを並べておくことであり、本事業で構想された支援ネットワークが実際にパンフレットを目にした大学生らを媒介して、実用化につながると考える。2) 地域の支援施設にも、大学生部門に特化した既存のパンフレットの設置場所を整備し直すことを提案する。

このようにして、大学と地域とで一体化・共通化した情報を大学生と大学生の支援者となり得る者に提供することができる。

## 6. 地域からの評価

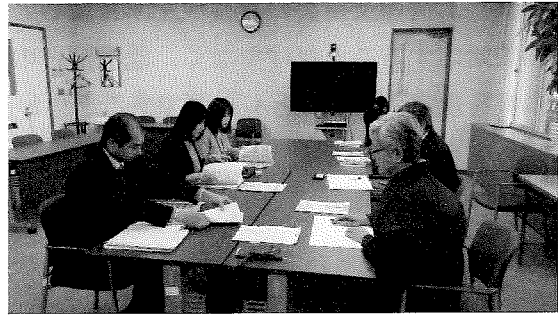
特に、12月15日には大学生を対象とした地域支援施設との情報交換会において、高い評

価を得た。具体的には、情報交換する機会が皆無であったため、地域支援施設側は大学機関の実態が不明なままでの支援となり、期待できる支援効果を見積もることが困難だったために、大変有益だったという評を得た。

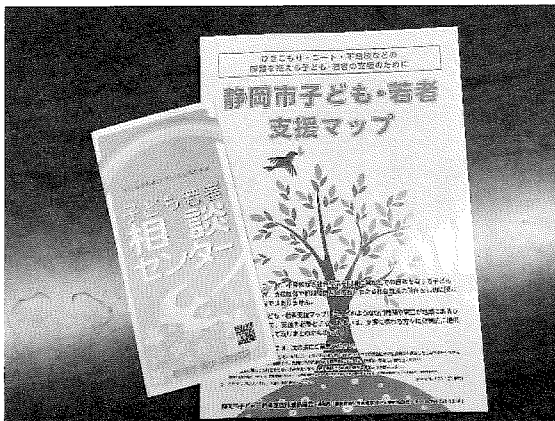
また、情報交換会の有益性をふまえると、大学や地域の相談者の業務のなかに、個別に相談対応することだけでなく、他機関との連携を含める（そのための業務時間や金銭的手当等を規定する）ことも必要であると思われることの課題提示があった。

## 写真一覧

### 1. 情報交換会の様子

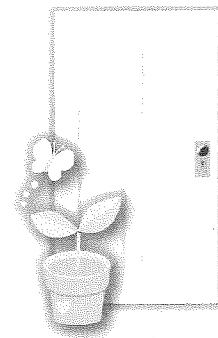


### 2. 本事業に係るパンフレット



常葉大学 静岡キャンパス

学生支援のための扉



常葉大学 静岡キャンパス学生支援センター  
保健室・カウンセリングルーム